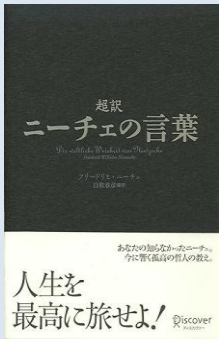


忙しい毎日の中、図書館ですごす時間を大切にしてくれている湖北の皆さんのために、図書委員会が始動して、本から始まる様々な機会を作ってくれています。そんな図書館には新しい考えをみつけるきっかけが、たくさんあるはず。図書館を存分に活用してみてください。

超訳ニーチェの言葉



4月5月と頑張ってきた皆さんに、肩の力を抜いて物事に向き合えるような気持ちになる一冊を紹介します。この本はフリードリヒ・ニーチェによって残された明るく前向きな言葉の中から、現代人にとってためになるものを選別してまとめられました。ニヒリズムや反宗教的思想といった独自の思想により二十世紀の哲学思想に多大なる影響を与えた、十九世紀ドイツの哲学者ニーチェ。翻訳家である本著の作者、白取春彦氏いわく、「ニーチェの哲学は決して難しくない。少し読んでみれば興奮を覚えるだろう。」とのこと。初版から10年以上経ちますが、今もおベストセラーです。

「疲れたと感じたら、考えない、思わない」

いつものように毅然としていられなかったら、疲れている証拠だ。そのうちに憂鬱なことや、暗いことが、頭の中を勝手に動き回るようになる。疲れたと感じたら、寝るに限る。～ 悦ばしき知識 ～

「人間的な善と悪」

悪とは何か。人を恥づかしめることだ。最も人間的なこととは何か。どんな人にも恥づかしい思いをさせないことだ。人が得る自由とは何か。どんな行為をしても自分に恥じない状態となることだ。～ 悦ばしき知識 ～

「好奇心に振り回されない」

世間のすべてを見聞きできるほど人生は長く続かない。自分がかかわる方向を着実に見定め、それに専念していくほうが、ずっと賢く、自分を充実させることができる。～ 漂泊者とその影 ～

「危険なとき」

車に轢かれる危険が最も大きいのは、1台目の車をうまくよけた直後だ。同じように日常生活においても、気をゆるめたときにこそ、次の危険が迫っている可能性が高い。～ 人間的な、あまりにも人間的な ～

「1日の終わりに反省しない」

仕事を終えて、1日が終わり、自身を振り返り反省する。たいていは不快で暗い結果にたどりつく。単に疲れているからだ。、何かに夢中になって打ち込んでいるとき、楽しんでいるときは反省したりしない。～

「あらゆる人から好かれなくていい」

相手に対して、いくら丁寧に接しても、その場で見直してもらえないことはない。誰からも好かれることが当然だとは思わず、普通に接していたほうがよほどいい。～ 人間的な、あまりにも人間的な ～

<著者>

フリードリヒ・ヴィルヘルム・ニーチェ(1844～1900)
ドイツの哲学者・古典文献学者。1844年にプロセイン王国領ザクセンに牧師の子として生まれた。ボン、ライプツィヒ両大学に学び、ワーグナーとショーペンハウアーに傾倒した。若干24歳でスイス・バーゼル大学の古典文献学の教授となる。1872年に処女作『悲劇の誕生』を発表。1879年に大学を辞し、十年にも及び漂泊の中で執筆活動が続けるが、1889年に精神が崩壊、1900年にワイマールに没した。
ヨーロッパ思想への痛烈な批判、永劫回帰、カへの意志など、その鋭く独自の思想により、ハイデッガーをはじめとする二十世紀の哲学思想に大きな影響を与えた。
代表作に『ツァラトゥストラはかく語りき』(1883～1885)、『善悪の彼岸』(1886)、『人間的な、あまりにも人間的な』(1878)、『ショーペンハウアー』(1874)などがある。

<編訳>

白取春彦(しらとり はるひこ)
青森市生まれ。ベルリン自由大学で哲学・宗教・文学を学ぶ。
哲学と宗教に関する解説書の明快さには定評がある。主な著書に『ビジネスマンのための「聖書」入門』『勉学術』『頭がよくなる思考術』(以上、小社)、『考えすぎない思考術 成功体質になる24の習慣』(宝島社)、『仏教「超」入門』

図書館イベント報告

図書館イベントは、貸し出し利用が活発になるように企画された本に関するイベントです。今年度一回目のイベントは、高校総体西部予選のリーグ戦で全勝1位通過し、勢いも堅実さもあるサッカー部3年生による萩原朔太郎の『竹』の群読です。声に出して美しい日本語を、サッカー部の皆さんの素晴らしい群読から感じてもらえる時間になったと思います。

群読とは詩や古典などの文章を集団で読む朗読方法のことです。その音声表現は一人読みした場合と比べて作品内容が拡大し増幅した情感性豊かな、美的な、芸術的な読み声となって現われます。群読によって、今年のサッカー部のチームワークや明朗さを感じてもらえたのではないかと思います。**36HR杉浦大**



萩原朔太郎(はぎわらさくたろう)は、明治19年に群馬県前橋市に生まれました。口語体の自由詩に、とぎすまれた感覚的表現をもちこんで、新しい詩風を確立しました。代表作に詩集『月に吠える』や『青猫』があります。今回は『月に吠える』から『竹』を群読しました。**36HR山中爽楽**



「竹」(詩集月に吠えるより)
光る地面に竹が生え、
青竹が生え、
地下には竹の根が生え、
根がしだいにほそらみ、
根の先より繊毛が生え、
かすかにけぶる繊毛が生え、
かすかにふるえ。
かたき地面に竹が生え、
地上にするどく竹が生え、
まつしぐらに竹が生え、
凍れる節節りんりと、
青空のもとに竹が生え、
竹、竹、竹が生え。

～ 追悼特集 ～



鈴木光司 (すずきこうじ)

静岡県浜松市出身 1957年-2026年
静岡県立浜松北高校 慶応義塾大学文卒業
大学卒業後は専業主夫の傍ら、自宅で学習塾を開き1人で全教科を教えながら小説を執筆する。
1990年 ファンタジーノベル大賞受賞
1995年 吉川英治文学新人賞受賞

浜松湖北高等学校校歌『新しい歌をうたおう』作詞をして下さった作家の鈴木光司さんが、令和8年5月8日病気のため永眠されました。68歳でした。呪いのビデオの恐怖を描いた「リング」が人気を集め、続く「らせん」では吉川英治文学新人賞を受賞しました。「リング」「らせん」は映画化され、ハリウッドでもリメイクされることとなり、「Jホラー」ブームの火付け役ともなりました。ホラー作品ではありませんが、緻密に構成された心を揺さぶるヒューマンミステリーを紹介します。鈴木光司さんのご冥福をお祈り申し上げます。

『楽園』



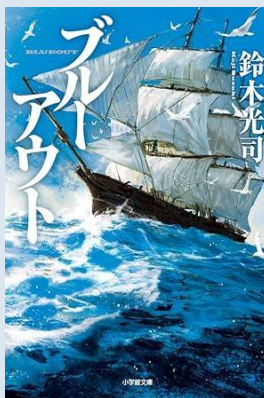
太古のモンゴル砂漠で暮らしていた男女が、他部族の襲撃により離れ離れになってしまう。伝説の赤い鹿の精霊に導かれた男は、最愛の妻を追う。18世紀の南太平洋の小島で、現代のアリゾナの地底湖で、輪廻転生した二人は、互いを手繰り寄せ。離れ離れになった二人が時空を超えて再開する軌跡を、確かな歴史的知識を基礎にしつつ、繊細で丁寧に描いた三部作。

『光射す海』



精神科医の望月が勤務する病院に1人の女性患者が収容された。入水自殺を図り救助されたその女性は、記憶と言葉を失っていた。口をきくことすらできない彼女が、なぜか口ずさむ歌。誰も知らないこの歌をきっかけに、徐々に謎が氷解していく。偶発的に誕生した遺伝子により決定付けられた運命。それを知ってしまった人間の選択と希望とは？生きる事の真の意味と価値を問う作品。

『ブルーアウト』



和歌山県串本町のダイビングショップでガイドとして働く高畑水輝とトルコ人青年ギュスカンの目的は、いまから125年前、祖先ムスタファを乗せた軍艦「エルトゥールル号」の遭難現場に潜り、「あるもの」を探すことにあった。1890年に起きた「エルトゥールル号遭難事故」に着想を得て、書き下ろした生命の根源を問う渾身の一作。

『サイレントリー 枝の折れた小さな木』



10歳で死んだ妹が人生を幸福に全うする過程を、兄はCGを駆使して映像にし、悲嘆に沈む父に見せた…「枝の折れた小さな樹」。両親を失った女子高生と、生後まもない娘を遺して妻に死なれた塾講師。二人の前にあるシーンが立ち現れる…「サイレントリー」。打ちひしがれた心が、輝いた瞬間の記憶を頼りに再生していく。人生をいとおしむ静かな7つの物語。